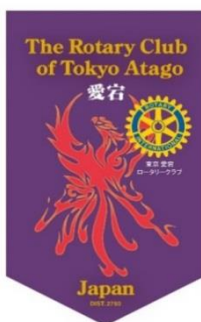


No. 18 2014/11/25

WEEKLY REPORT 2014~2015



東京愛宕ロータリークラブ

会長 尾関勇 ・ 幹事 佐藤秀樹
副会長 石渡美奈 ・ 副会長 片山謙次
副会長 波多野まみ
例会場 東京アメリカンクラブ
例会日 毎週火曜日 8:00~

2014年11月25日(火)
本日のプログラム

<イニシエーションスピーチ>
東京愛宕RC副S.A.A / 社会奉仕副委員長
合同会社RMK&Co.会長
山田哲也会員

■2014年11月18日 会長挨拶 会長 尾関 勇

本年度地区目標である、各クラブでの1名のベネファクター(1,000ドル寄付者)に加藤さんが立候補してくださいました。本当にありがとうございました。さて、11月26日は第2回東京愛宕創業支援塾が開催されます。実行委員会と連絡を取り合ってください宜しくお願い致します。また来年2月24、25日には、地区大会が2日間行われます。今年はジャパンロータリーデーが2月4日にあります。両方のご参加は負担かと思ひ相談の上、それぞれに割り振らせて頂きたいと思ひます。またポリオの事業が2月中旬インドであり、私も参加してみようと思ひますので、皆さんも、参加できそうな事業には是非顔を出していただければと思ひます。

本日メインで話そうと考えておりましたが、小学校のいじめが過去最多、またお子さんの6人に1人が貧困に直面していると言ひます。私は非常に危惧しており、そんなことの事業も皆さんと何かできたらと思ひ次第でございます。

<卓話>

東京杉並ロータリークラブ2014-15年度幹事、
公認会計士・税理士、I & R総合会計事務所
代表 寺尾 潔様

このような卓話の機会を頂き厚く御礼申し上げます。本日のテーマ「寄付の経済的合理性と節税効果」、テーマとしては非常に難しいお話を頂きましたが、主旨・目的として「会員が任意にて寄付をしたい!と思える環境作り」をお考えだと加藤さんより伺っています。財団委員会としての寄付の増額はもちろん、何より任意にて寄付をしたいと自主的・積極的に寄付をするという環境作りを考える、その主旨・目的に沿ってお話しできればと思ひます。まず寄付とは何か。寄付は「金銭や財産などを公共事業、公益・福祉・宗教施設などへ無償で提供すること。寄付は、寄付者が自らの意思に基づき金銭・財産を対象機関・施設へ無償で供与することで行われる。」ポイントは「無償」「自らの意思に基づくもの」。同じく経済的合理性とは何か。納税者が税務当局に勝つ唯一のポイントがこの経済的合理性。元々会社法という法律の中で、商人は合理的に行動するという承認の定義が明記されており、ビジネスマンは常に経済的合理性を持って説くんだと定義づけられていますので、税務訴訟の場でも、唯一の根拠、勝つポイントになります。経済的合理性とは、「経済的な価値基準に沿って論理的に判断した場合に、利益があると考えられる性質・状態。」寄付の定義、無償です。経済的合理性、利益です。この関係性は何なのか。利益は「収益-費用=利益であり、

~四つのテスト~

1. 真実かどうか
 2. みんなに公平か
 3. 好意と友情を深めるか
 4. みんなのためになるかどうか
- 言行はこれに照らしてから行うべし

収益=対価、有償」です。先の寄付の「無償」と経済的合理性で考慮される対価は「有償」。寄付行為と経済的合理性、定義だけを照らし合わせると完全に矛盾する概念となります。直接的な利益獲得は寄付には想定されていません。即ち、直接的には経済的合理性はない。ここで今日のテーマが終わってしまいます。実は、寄付と経済的合理性は相矛盾します。故に非常に日本は寄付が少ない国になっています。そこで寄付の現状を共有させていただきます。一人一世帯当たり年平均寄付額、日本は約2,500円、東北震災があった時でされ6,400円。それに比べアメリカは年間平均約13万円~17万円の寄付が行われています。イギリスでは約4万円。これだけ日本と諸外国には差があり、世界で日本の水準は低いと言われていいます。寄付総額でも日本8,800億円、震災時で1兆円超えた程度です。GDPの比率は約0.18%程度。それに比べアメリカは25兆5,245億円、もちろん国民の数も異なりますがGDP比で言っても2.01%、英国でさえ1兆4,914億円、GDP比0.75%です。現状はこれほど違うのです。その理由は文化・歴史的背景と言われていいますが、そもそも、寄付は無償の行為、経済的合理性は有償による利益だ、ここに根本的な問題があるのではと思ひます。なぜ違うのか。まず寄付の動機について複数回答のアンケート結果は、日本「他の人や社会の役に立ちたい」60%。米国「正しい事をしていると思うから」76%。他の人や社会の役に立ちたいどころか、その寄付を行うという行為そのものがその人の人生を生きる上で当然の行為、誰かの役に立つ以上の高いレベルで寄付・奉仕に身を置かれている、それが寄付額だけでなく動機にも出ています。では目的である、自主的・接客的に寄付を行うために、こういったことを考える必要があるのか。寄付行為を分析された行動経済学ダン・アリエリー(米:デューク大教授)の仮説によると、人が善行をするのは他人に良く見られたいから、と。誰がどれだけの寄付を行ったか公開すると、仮設通り寄付が増加、非公開時は寄付が減少しました。更に、優遇税制を公開される場合、減少しました。理由は、税金を減らしたいがために寄付をしたと思われたくないからです。この他人の評価を気にする「イメージモチベーション」が寄付には大きく影響してくると実証され



ています。ロータリー米山記念奨学会、財団、まさにイメージモチベーションで皆さんからの寄付を称賛することで推奨しています。ただ、ここまで聞いていただき、本当に表彰状や称号を頂くことで、モチベーションは高まりますか？我々世代はここにモチベートされないのではないのでしょうか？残念ながら30代・40代の方々はほとんどモチベートされない、私個人では考えています。寄付の経済的合理性、世代層はあるものの表彰等の他人からの評価、あるいは社会的責任・CSR等、間接的に信用を増加することで、結果として売上や利益に繋がる、そのため多くの企業が予算をかけて行っています。その点も建前上は寄付の経済的合理性と定義づけることが出来るかもしれませんが。多くの企業がCSR行っています。ただこの点に関しても考えて頂きたいのですが、身近な存在の携帯電話会社を選ばれる時、各企業がどんなCSRを行っているか確認されますか？考えてないと思います。車もそうです。共感を持って皆さん自身の購買判断をされることはないと思います。そこから見ても間接的経済的合理性は疑わしいと、個人的意見として感じています。

ではどうしたら我々自身が積極的に寄付を行っていくのか。個人の提案として、他者、社会との関わり方、我々が持っているパラダイム、思考のプロセスを変換し他者の利益を個人の利益と捉え得る本質的な価値観を醸成されていく必要性があると思います。もう一度定義を思い出していただきたい、寄付とは無償である。そして経済的合理性は利益になると言いました。この利益が、自分に関わる利益でなく、本当に助けられるあるいは支援される、利益を享受する方々が利益を享受したそのものだけに、我々自身が満たされる、利益と捉えられる。そこから繋がりがいつか自分に返ってくる。誰かが助けられたその行為そのものを利益と捉えられる価値観を作っていくかないと。本質的な部分としては、我々が寄付を行っていくには最終的見返りとして返ってくるのではなく、他社の利益を自らの利益と本当に捉えられるところまで自分自身を高めていく必要があるかと思っています。選択理論心理学

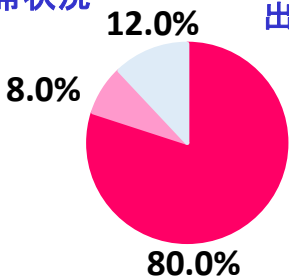
と言うものがあります。これはまさに他人の欲求・願望の充足を支援すること、自らの欲求・願望とすること、それこそが人と人とが関わる良好で上質な関係を築く上で非常に重要であると第一人者ウィリアム・グラッサーは提唱しています。相手の話を継承し、応援し支援するそして信頼する、そうやって人との関係を構築していくのが選択理論心理学です。我々自身が心の持ちようを変えることによって、結果として本来の経済的合理性から外れるかもしれませんが、寄付によって救われる人たちの利益を我々の利益と置き換えられる、そんな人間性に変わっていかなければいけないと思います。いじめ・差別をなくしていくのもこの選択理論心理学の目的になっています。まさに心の持ちようを変えることにより、いじめ・差別を社会的になくすことに大きな貢献ができ、また自身が自らの意志で積極的に寄付を行っていくことで、寄付を高めていくことになると思います。

そして節税効果、個人は税額控除と所得控除があります。基本的には税額控除が有利になります。法人の方は、普通法人と特別公益増進法人があります。寄付は節税ではありません。自らの所得・財産を減らし、寄付を行っています。節税ではなく、本来の権利です。残念ながら日本を含めた政府の考え方は、寄付によって脱税行為を行う人がいるので制限を設ける。本来当たり前の財産が減ったんだから税金かからないはずのところ、制限をかけられ一定額だけ税金が減るようになっています。これでも改善された方です。節税の定義は、今日の前にある利益を将来に繰り延べる、それを節税だと定義づけるとあります。事業リスクを考えると、今はいいが10年後は同じような利益が出ているかわからない。欧米は今払ったものを、将来取り戻すことができます。一応日本では1年は認められています。今かかる税金を将来繰り延べていく必要性があるので、寄付で節税を行うのではなく、節税保険等を使って将来繰り延べるのが大きな節税効果を得られるかと考えられます。

◆◆ 出席報告 ◆◆

2014年11月11日 出席状況

- ・会員数 25名
- ・出席者 20名
- ・ビジター 5名
- ・ゲスト 1名



出席率内訳

- 当日出席数(20)
- 修正出席数(2)
- 欠席数(3)

修正出席率
88.0%

《目標出席率》
本例会50% 修正100%

◆ニコニコBOX◆ ￥10,000 累計総額 ￥306,315

・本日は同じグループの寺尾幹事の卓話楽しみです。尊敬している社長である市村さんにご来会いただき光栄です。(尾関)・ただいま。皆に会えてニコニコ。(石渡)・本日の卓話楽しみにしています。(柳)・ロスと香港へ出張に行きます。(岩城義親様・東京西RC)・女房がお世話になっています。(市村次夫様・長野RC)

11月・12月のプログラム

- ◆11/26(水)18:30～20:30 第2回東京愛宕創業支援塾@国際文化会館
- 12/2(火) 卓話: 山田博様(株式会社森へ代表取締役、『森のリトリートforBusiness』主宰)
- 12/9(火)～10(水) 移動例会@箱根湯本(年次総会・第3回クラブ例会も開催)
- ※朝7時45分～8時15分、例会場にて メーキャップ対応あり
- 12/16(火) 卓話: 中村八千代様(マニラのユニカセ(日本の食堂)経営者、ストリートチルドレン出身者を雇用する社会活動を行う)

国際ロータリー第2750地区

東京愛宕ロータリークラブ

<事務局>

〒106-0044 東京都港区東麻布2-15-2 アンゼン・パックスビル2階

TEL:03-3568-3827 / FAX:03-3568-3829 / E-mail:office@atagorotary.com

広報戦略委員長 柳 邦明

<http://atagorotary.com/>

